

平成30年度岡山県農林水産総合センター農業研究所試験研究課題評価結果票

<事前評価>

総合評価凡例 5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当
 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い
 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要

番 号	30-事前-1						
課題名	麦栽培における除草剤抵抗性スズメノテッポウ総合防除体系の確立						
課題の概要	県南部で除草剤に耐性のスズメノテッポウが発生し、問題となるため、晩生水稲後の麦作で、実用性の高い除草剤抵抗性スズメノテッポウの総合防除体系を確立する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
	有効性	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	効率性・妥当性	0人	3人	2人	1人	0人	3.3
	総合評価	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
助言・指摘事項等	1. 今後、大きな問題になる可能性がある除草剤抵抗性雑草の防除に関する研究で、大型農家におけるニーズは高く、実施することが妥当である。 2. 岡山県内での被害の実態把握、今後の被害の予測が重要と考える。 3. 九州地方における防除体系よりハードルは高いと思われるが、情報を収集して、岡山県版の防除体系(有効な除草剤の選定と処理方法の確立)の開発を期待する。 4. 晩生水稲収穫～麦播種までの約1ヶ月間に、多雨などの悪天候条件でも適用できる総合防除体系を確立して欲しい。 5. 被害解析と費用対効果を十分に検討していく必要がある。 6. 3年間の研究の後に、追跡調査も検討して欲しい。						

番 号	30-事前-2						
課題名	水田土壌の硫黄欠乏の実態解明と対策技術の確立						
課題の概要	県内水田における硫黄含量の実態と硫黄欠乏の診断基準を明らかにするとともに、低コストで持続性のある改善対策技術を確立し、水稲の安定生産につなげる。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	2人	4人	0人	0人	0人	4.3
	有効性	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
	効率性・妥当性	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	総合評価	1人	5人	0人	0人	0人	4.2
助言・指摘事項等	1. 岡山県で先行的に普及している肥効調節型肥料が原因の一つと考えられることから、速やかに解決に向けて取り組むべき課題である。 2. 早急に硫黄含量の実態を調査し、県内の硫黄欠乏が生じる可能性が高い水田地域を把握し、対策を講じる必要がある。 3. 硫黄欠乏と被害との関係を明らかにして、低コストで持続性のある改善対策技術の確立が急がれる。 4. 硫黄不足の認識度は低いため、試験研究の成果とともに、普及センターを通じての啓蒙活動が重要になると考えられる。 5. 他県の研究機関などと連携、情報共有を検討して欲しい。						

番号	30-事前-3						
課題名	準高冷地での「シャインマスカット」の安定生産技術の確立						
課題の概要	準高冷地では秋期の日照不足等、気象条件の影響で「シャインマスカット」が年により糖度不足になることがあるため、準高冷地でも安定して糖度上昇する栽培技術を確認する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	1人	4人	1人	0人	0人	4.0
	有効性	1人	3人	2人	0人	0人	3.8
	効率性・妥当性	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	総合評価	1人	4人	1人	0人	0人	4.0
助言・指摘事項等	<p>1. 準高冷地を活用してシャインマスカットの生産拡大に繋げる研究課題で、県産ブドウのブランド力強化が期待できる。</p> <p>2. 栽培地域の拡大により、県南部、中北部、準高冷地へのリレー出荷が期待できる。</p> <p>3. 日照時間と糖度の関係を明確にした上で、メッシュ気象データを用いることにより、栽培適地の推定精度向上を目指して欲しい。</p> <p>4. 気象庁の長期予報などで、秋季の日射量が少ないと予想される場合の対応技術の開発に期待する。</p> <p>5. 今後、頻発すると思われる気象変動による大雨にも対応できる技術開発を期待する。</p>						

番号	30-事前-4						
課題名	天候対応型炭酸ガス施用による施設栽培ナス多収技術の確立						
課題の概要	これまで農業研究所が開発し、産地にも導入が進みつつある炭酸ガス施用をさらに高めるため、天候に対応した炭酸ガス施用による増収技術を確認する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
	有効性	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	効率性・妥当性	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	総合評価	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
助言・指摘事項等	<p>1. 天候に対応した効果的な炭酸ガス施用技術に関する重要な研究課題で、施設管理の自動化等のスマート農業への活用が期待できる。</p> <p>2. 晴天日でも風が強い場合や1日のうちで天気の変化が激しい場合の対応についてのマニュアルが必要である。</p> <p>3. 炭酸ガス施用の導入コスト、管理の労力などを考慮すると、相当な増収効果が得られなければ普及は難しいことが想定されるため、しっかりした経営評価を行い、農業者に対して説得力のある技術として開発して欲しい。</p> <p>4. 炭酸ガス施用と併せた密植・多肥栽培が狙い目となるが、現場における新たな栽培上の問題点について、普及センターと協力しながら技術を開発して欲しい。</p>						

番 号	30-事前-5						
課題名	水田転換畑における野菜安定生産のための排水対策技術選択手法の確立						
課題の概要	水田転換畑の圃場条件に対応した低コストで効果的な排水対策の選択手法を確立し、水田転換畑における加工・業務用野菜の安定生産を可能にする。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	必要性	0 人	6 人	0 人	0 人	0 人	4. 0
	有効性	1 人	5 人	0 人	0 人	0 人	4. 2
	効率性・妥当性	1 人	5 人	0 人	0 人	0 人	4. 2
	総合評価	1 人	5 人	0 人	0 人	0 人	4. 2
助言・指摘事項等	<p>1. 水田転換畑での排水対策は喫緊かつ重要な課題であり、研究に取り組む意義は大きい。</p> <p>2. 排水性の悪い水田において、転作でコストを投じて排水対策を行い、野菜を栽培する理由付け、判断基準が欲しい。</p> <p>3. 排水不良要因の解明にあたっては、圃場の現状だけでなく、地形、地歴も参考にして検討して欲しい。</p> <p>4. 排水対策にあたっては、収益向上、規模拡大につながるよう費用対効果も検討する必要がある。</p> <p>5. 水田転作時には、排水性以外の土壌条件の改良点も必要と考えられる。</p> <p>6. 様々な圃場の条件毎の排水対策技術を確立して欲しい。</p>						

番 号	30-事前-6						
課題名	準高冷地に適した加工・業務用キャベツ安定生産技術の確立						
課題の概要	準高冷地の気象条件を活かした7～10月収穫の加工・業務用キャベツ栽培において、現状平均4.4t/10aの収穫量を、6tに引き上げる安定生産技術を確立する。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	必要性	0 人	5 人	1 人	0 人	0 人	3. 8
	有効性	0 人	5 人	1 人	0 人	0 人	3. 8
	効率性・妥当性	0 人	4 人	2 人	0 人	0 人	3. 7
	総合評価	0 人	6 人	0 人	0 人	0 人	4. 0
助言・指摘事項等	<p>1. 準高冷地の気候を活用したキャベツ安定生産技術に関する研究課題であり、一斉収穫とコンテナ出荷により、出荷・調整作業の省略化が図られ、契約栽培による大規模経営農家の育成が期待される。</p> <p>2. 灌水設備が整っていない地域での定植苗の初期生育改善方法として、新たな技術開発を望む。</p> <p>3. 7～10月の連続的な収穫に向けた栽培体系についての検討も望む。</p> <p>4. 品種選定に加えて、出荷、調整、流通にも準高冷地域での課題があると思うので、それらの課題解決も期待したい。</p>						

注意事項

- ① 各評価委員の評価内容を基に、重複する評価内容を取りまとめて記載する等、簡潔にとりまとめてください。また、この資料は、HPで公表する予定ですので、特定の個人を指す事例や特許取得等に支障がある内容は表現を改める等、個人情報の保護や知的財産権の取得等に支障がないよう、配慮してください。
- ② 評価結果欄は全ての項目について、得点を付けた人数を記載し、平均点を少数第1位で記載してください。

平成30年度岡山県農林水産総合センター農業研究所試験研究課題評価結果票

<中間評価>

総合評価凡例 5：優先的に継続することが適当 4：継続することが適当
 3：計画変更して継続することが適当 2：継続の必要性が低い
 1：中止すべきである

番号	30-中間-1						
課題名	ブランド米「朝日」の生産性向上を目指した品種改良						
課題の概要	業務用良食味米として実需者ニーズが高い「朝日」の脱粒性を改善して収量増を図り、ブランド米「岡山県産朝日」として販売できる新品種を育成する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成可能性	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	〃（阻害要因）	0人	0人	6人	0人	0人	3.0
	必要性	1人	1人	4人	0人	0人	3.5
	有効性	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	効率性・妥当性	0人	4人	1人	1人	0人	3.5
	総合評価	1人	4人	1人	0人	0人	3.8
助言・指摘事項等	1. 脱粒性が改善された「岡山県産朝日」の育成が順調に進められており、継続して課題を実施することが妥当と判断する。 2. 今後、現地適応性の実証試験の結果に期待する。 3. 生産性が上がれば、弁当や外食産業への需要には応えられるようになると思われる。 4. 人工交配をしていないという希少性や物語性を失うことなどのデメリットについて、関係者間での販売戦略の協議が必要である。 5. 実需者によって賛否両論があるため、広く意見を聞いて、新品種の普及を進めていく必要がある。						

番号	30-中間-2						
課題名	ブランド米「アケボノ」の安定多収生産技術の確立						
課題の概要	アケボノが多収となる幼穂形成期頃の生育指標と収穫時の収量要因の関係を明らかにする。幼穂形成期頃の生育指標に基づく多収のための管理調節技術（追肥、生育調節剤、水管理等）を確立する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成可能性	0人	1人	5人	0人	0人	3.2
	〃（阻害要因）	0人	1人	5人	0人	0人	3.2
	必要性	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	有効性	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
	効率性・妥当性	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	総合評価	0人	6人	0人	0人	0人	4.0
助言・指摘事項等	1. これまでに多収のための生育指標が明らかとなり、次の段階として乾田直播栽培での安定多収技術の開発を目指す研究課題である。大規模化に対応した乾田直播栽培での生育指標と収量等との関連性に基づく、安定多収管理技術の確立・実用化が急がれており、継続して実施していただきたい。 2. 収量を増やすという目的は、順調に達成できている。 3. 乾田直播栽培においても、移植栽培で得られた研究結果は十分利用できると思われるので、今年度から積極的に研究を行い、速やかに研究成果を出して欲しい。 4. 「アケボノ」は夏季の高温に強い品種として見直され、多収品種として期待されており、乾田直播栽培での安定多収技術の確立に期待する。						

番 号	30-中間-3						
課題名	モモのオリジナル新品種の高品質安定生産技術の確立						
課題の概要	農家経営の安定と県産ブランド推進を図るため、早生から晩生までのオリジナル品種のシリーズ化を目指した高品質・安定生産技術を確立する。						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	目標達成可能性	0 人	2 人	4 人	0 人	0 人	3.3
	〃（阻害要因）	0 人	1 人	5 人	0 人	0 人	3.2
	必要性	0 人	2 人	4 人	0 人	0 人	3.3
	有効性	0 人	2 人	4 人	0 人	0 人	3.3
	効率性・妥当性	0 人	3 人	3 人	0 人	0 人	3.5
	総合評価	1 人	5 人	0 人	0 人	0 人	4.2
助言・指摘事項等	<p>1. 早生から晩生まで、連続して出荷できる岡山白桃シリーズ化に係る研究課題である。現地実証試験を継続するとともに、生理障害等の課題解決に向けて、引き続き継続することが妥当と判断する。</p> <p>2. 岡山白桃のブランド力強化に向けて、新品種の生産特性の解明と高品質安定生産技術の確立は重要であるため、積極的に進めて欲しい。</p> <p>3. 清水白桃以外の品種による出荷時期の分散は必要であり、新品種の栽培技術の開発と、ギフト時期以外の販売強化策と併せて進める必要がある。</p> <p>4. 渋み対策は重点的に行って欲しい課題であり、香りに注目した研究にも期待する。</p>						

注意事項 事前評価と同じ

平成30年度岡山県農林水産総合センター農業研究所試験研究課題評価結果票

<事後評価>

総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った
 1：成果が得られなかった

番 号	30-事後-1						
課題名	岡山オリジナルフラワーの次世代品種の開発						
課題の概要	本県花き生産の維持・発展を図るため、主要花きのスイートピーとラークスパーについて、本県独自の品種を育成する。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	2人	2人	2人	0人	0人	4.0
	有効性(効果)	2人	2人	2人	0人	0人	4.0
	有効性(目的以外の成果)	2人	3人	1人	0人	0人	3.8
	効率性・妥当性(費用対効果)	1人	1人	4人	0人	0人	3.5
	効率性・妥当性(計画)	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	成果の活用・発展性	2人	3人	1人	0人	0人	4.3
	総合評価	2人	2人	2人	0人	0人	4.0
助言・指摘事項等	<p>1.岡山オリジナルフラワーとして、無巻ひげ・黄白花のスイートピー1品種を育成した点、日本初の種間雑種品種の育成に成功した点、ラークスパーにおいても青花の1系統と早生・白花の1系統を育成した点等から、目標は達成されたと判断され、非常に高く評価できる。</p> <p>2.スイートピーの3種間雑種個体の育成に成功しており、今後の展開が期待できる。</p> <p>3.研究的には十分な成果が得られたと思うので、研究成果の公表や品種登録をしたのち、早急に技術移転、実用化し、普及に努めて欲しい。</p>						